

きべりはむし

第16巻 第1号

目 次

兵庫県のツツハムシ(2)	高橋 寿郎 1
シラホシハナムグリの兵庫県下での分布	高橋 寿郎 5
播磨平野のネプトクワガタ	高橋 寿郎 7
芦屋市内におけるクロコノマチ ヨウの記録	西 隆広 8
ヒオドシチ ヨウの秋季記録	西 隆広 9
モンシロチ ヨウの遅い記録	西 隆広 10
西宮市内で迷蝶を採集す	新家 勝 11
宝塚市におけるシジミチ ヨウ 2 種の採集記録	新家 勝 12
宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(続報その8)	新家 勝 13
カバフキシタバの芦屋市における記録	西 隆広 16
カバイロキヨトウの一記録について	西 隆広 16
宝塚大橋の甲虫(その1)	新家 勝 17
ネプトクワガタの採集2例	森田 真澄 19
ヨツボシナガツツハムシ六甲山系逢山峡に産す	高橋 寿郎 20
県関係文献紹介	24
県内学会誌・同好会誌・連絡誌	26
会 員 異 動	26

兵 庫 昆 虫 同 好 会

1988年5月

兵庫県のツツハムシ (2)

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 205)

高 橋 寿 郎

“兵庫県のツツハムシ”と題して“Parnassius” (No.32:3-11,1987)誌上に拙文を発表して頂いたが投稿から発表までに若干時間がかかった関係から訂正しなくてはならない点追加すべき新知見もあつたりするので此処に第2報として発表させて頂き度いと思う。

○学名の変更

10. *Cryptocephalus exiguus* Schneider

モモグロチビツツハムシ

前回*Cryptocephalus kiyosatonus* Kimoto モモグロチビツツハムシとしたがその後木元新作博士はヨーロッパ原産の*C. exiguus* Schneider (Neuest, Magaz., 1(2):189)のシノニムとされた(Ent. Rev. Japan, Vol. 41, No. 2, p. 125, 1986)。従って学名は上記のようになる(番号は前回の報文のもの、以下同じ)。

14. *Cryptocephalus parvulus* Muller

セスジツツハムシ

前回*Cryptocephalus obliquostriatus* Motschulsky セスジツツハムシとしたが木元新作博士はヨーロッパからMüllerにより記載された*Cryptocephalus parvulus* のシノニムであるとされているので(Ent. Pap. pres. Kurosawa, Tokyo, pp. 310-311, 1986) この学名に変更させて頂く(尚ハギツツハムシの属名が変わるがハギツツハムシの項の所で説明させて頂く)。

○産地の追加記録その他

全般にわたり兵庫県下の産地の追加はあるが特に注意すべき種に就いて此処に追加記録しておく。

1. *Adiscus lewisi* (Baly)

タマツツハムシ

前回県下での産地を紹介しておいたがこの種は播磨平野各地にもごく普通に見られる種で前回以後次の様な所で採集出来ているし、特に小野市山田町の池畔でのコナラ葉上では多いとの印象を受けた。

追加産地：神戸市木津（1♀，27-VII-1984），逢山峡（1♀，1-VII-1986，2♂，2♀，7-VII-1987）。三木市細川中（1♀，11-VII-1985，1♀，26-VII-1985），吉川町（2♂，4♀，14-VII-1986，10♂，7♀，3-VII-1986），笹原（1♀，26-IX-1986）。美濃郡吉川（1♀，11-VII-1985，1♀，27-VII-1985，1♂，2-VIII-1985）。小野市山田（4♂，5♀，8-VII-1987，2♂，1♀，8-VII-1987）。加東郡東条町森（5♂，1♀，4-VII-1984），社町三草（1♂，17-VI-1987，2♂，3♀，24-VI-1987）。

2. *Coenobius piceus* Baly

クロヒメツツハムシ

その後標高の低い所、いわゆる播磨平野と称される地域で採集出来ている。かなり広く分布している種のようなのである。

追加産地：三木市細川中（1 ex., 11-VII-1985），口吉川町（2 exs., 4-IX-1986）。美濃郡吉川（1 ex., 13-IX-1985）。加東郡東条町森（1 ex., 20-VII-1984）。

4. *Cryptocephalus amicus* Baly

キアシチビツツハムシ

兵庫県下からの記録は扇の山の記録を知っていただけであったが1987年6月27日と7月7日にそれぞれex.神戸市の逢山峡（標高400mの地点）で採集することが出来た。

8. *Cryptocephalus fulvus* Goeze

ウスグロスジツツハムシ

本種はGoezeによりヨーロッパ産で記載された種である(Ent. Beytr. 1:321, 1777)。

1874年のGemminger et HaroldのCatatogue Coleopterorum Tome X I. Chrysomelidae (Part. I)によると(p. 3326)多くのシノニムが掲げられている。有名なE. ReitterのFauna Germanica IV Band, 1912には原色で図説されている(p. 101, pl. 143, f. 24)。また1913年のH. ClavareauによるW. Junk Coleop. Cat. Pars. 53, p. 151ではヨーロッパ、西シベリアが分布地とされている。

中国からの本種が記録されたのはChenによるものが初めてである(Sinensia, 13(1-6):121, 1942, N. China

)。

Gressitt及び木元新作両博士の “The Chrysomelidae of China and Korea” (Pacific Insect Monograph 1A:151, 1961) の中では本種の分布はヨーロッパ、シベリア、北支那とされている。そしてこの中で中條道夫博士が朝鮮半島 Kankyo-Nando から図を入れて新種記載されたウスクロスジツツハムシ *C. fuscolineatus* Chujo (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, Vol. 30, No. 205, p. 385-389, f. 5, 1940) が本種のシノニムと処理された。

中條道夫博士はその後このウスクロスジツツハムシを Korea: Hill Gozan から記録しておられる (I. C., Vol. 31, No. 219, p. 456, 1941)。

さらに新潟県 (Kinoto-Seashore) から日本初記録として報告された (長岡市立科学博物館々報、p. 5, 1956)。この種がウスグロスジツツハムシのシノニムになるのであるが本種の日本からの初記録と言うのはこの中條博士のものになるわけである。

そして木元博士は 1964 年 “The Chrysomelidae of Japan and the Ryuku Islands, III” (Joun. Fac. Agri. Kyushu Univ., Vol. 13, No. 1, p. 155) の中で和田義人博士が武庫川で採集された 7 exs. (7-VIII-1951) を記録された。

これが兵庫県で本種が記録された初めてのものでありその後全く県下での記録が見られない種である (日本での記録も充分文献を見ていないので良くわからないが余り記録の見られない種のように思われる)。

1984 年木元博士は原色で図説された (原色日本甲虫図鑑 IV, pl. 31, f. 25, p. 162)。

かなりはっきりした色彩をしているハムシでそれ程同定に苦しむ様な種ではないと考える。1986 年三木市口吉川町で 1 ex. を叩網にて採集することが出来た。県下からは 2 番目の記録になると思われる。

食草・生態などは筆者の見た範囲の文献からはよくわからなかった。ともあれ県下では極めて珍しいハムシなので今後の調査をつづけなければいけない種の 1 つである (前報文で著者校正が無かった関係からミスプリントが多く申しわけなく思います。Goezu → Goeze。木本博士 → 木元博士。細田義人博士 → 和田義人博士)。

15. *Cryptocephalus perelegans* Baly

キボシツツハムシ

最近中根猛彦博士は本州産の本種の斑紋は割合安定しているようだがトカラあたりにゆくと可成り変化が著しいことを報告しておられる (北九州の昆虫、第 3 2 巻、第 1 号、p. 1-2, 1985)。(他に琉球諸島におけるキボシツツハムシ *Cryptocephalus perelegans* Baly の色彩・斑紋変異について木元

博士による図入りの解説論文もある。Kontyu Vol.42, No.3, pp.270-282, 1974)。確かに神戸市内産あたりでは斑紋の変化はそれ程目立たない。依然神戸市内にごく普通に見られるのに県下で他の地域にて採集出来ていないハムシの1つである。

19. *Pachybrachis eruditus* (Baly)

ハギツツハムシ

本種は従来 *Pachybrachus* Redtenbacher 属に扱われていたが木元新作博士は *Pachybrachis* Chevrolat 属に変更しておられる (Ent. Pap. pres. Kurosawa, Tokyo, p.311, 1986)。従って上記のようになる。

前報文で(和名は木元博士、1984による)県下での個体数はそう多くないむね記録しておいたが1987年7月7日神戸市北区逢山峡(標高400m位の地点)道端のハギに多くいるのが見られた。葉を食害している様子は見られなかったが葉の上にとまっているのが多かった。手で採集出来る状況であった(一応7日12exs.採集)。その後7月11日再度見に行った時もほぼ同じ状況で28exs.採集出来た。この日は交尾中のものも見られた。このハギには特にハギルリオトシブミが多く来ているしその他ホシハラビロヘリカメムシ、セマダラコガネ、ハギルリツツハムシ、ヨツボシナガツツハムシ等々も来ていたり、1ex.であるがキアシルリツツハムシも来ていた。けっこうこの時期ハギには色々の虫がやって来ているようである。さらに7月28日ハギの一部に花が咲き始めていたようだが依然本種は多かった。29exs.採集。

斑紋の変化もある様で既に中條道夫博士が詳記されているし(図説食葉はむし類、p.73-80, 1956)、木元博士も記しておられる(1984)。全体が黒いと言うのは見られなかったが上翅全面に黒い点刻が少なく全体が黄褐色に見えるものと変化がある斑紋をしていることは事実である。時期さえうまくめぐり会えば非常に個体数の多い種であることがわかった。

(OCT.1987)

シラホシハナムグリの兵庫県下での分布

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 0 6)

高 橋 寿 郎

かつて戦前シロテンハナムグリ *Protaetia orientalis submarmorea* (Burmeister) とシラホシハナムグリ *Protaetia brevitarsis* (Lewis) が混同して取扱われていた時代があり、1937年加藤正世博士がこの両者の違いを指摘され (昆虫界 Vol. 5, No. 43, p. 619-620) (この報文も若干不十分の点があるが一)、この報文に刺激されてからその当時この両者の調べが割合と各地でおこなわれたようである。兵庫県下でも調査されたと思われるが両者に関しての分布に就いての報文はほとんど無かった様に思われる。筆者は神戸市内の鳥原貯水池畔で調査した結果を発表した (兵庫県博物学会々誌 No. 19: 85-87, 1940)。その当時の県下のシラホシハナムグリの記録は之以外には安谷英也氏が高取山を記録されたもの (昆虫界 Vol. 8, No. 73: 192-193, 1940) がある位であった (ただ1901年に大上宇一氏の揖保郡と言うのが有るが之がシラホシハナムグリを意味しているのかシロテンハナムグリを意味しているのか良くわからない。また記録はしていないが米谷正司氏から氏自身住吉で採集された2♂、24-VII-1935標本を頂き現在も保管している。即ち当時住吉にもいたのである)。

終戦後ソ連から帰国してすぐ鳥原貯水池畔に出掛けて見たが戦争中の荒廃 (燃料不足等で樹を無闇に切ってしまったこともあった様である)、さらには開発の影響でシラホシハナムグリの姿は遂に見ることは出来なかった。神戸市では戦後採集出来ていないし記録も妙法寺というのがある位である (鳥居、1960)。

筆者自身は戦後一の鳥居で採集している (2♂、22-VI-1952、2♂、17-VI-1953) 仲田元亮氏も川西市黒川、笹部、川辺郡猪名川町等で記録しておられる (筆者戦前多田で1♂採集している4-VIII-1941)。氷上郡下からは山本義丸氏が比較的多く採集されその内柏原、黒井、市島で採集された標本 (4♂、1♀) を御恵与下さった。

出石郡出石町からは高橋 匡氏の記録がある (1963, 1981)。また西宮市岡田山の記録 (1974) も注目してよい。

淡路島では堀田 久氏が洲本市先山を記録された後1982年には田中 稔氏が津名郡東浦町浦の池畔の柳に多くいることを記録された (18♂、23♀、9~13-VIII-1981、M. Tanaka leg., *Parnassius*, No. 26, p. 12) (田中氏の御好意で前記の採集品の内2♂1♀を御恵与頂いて現在も保管している)。

さらに1986年7月14日三木市口吉川で蜂谷幸雄氏と調査に出掛けた際飛翔中のシロテンハナムグリに混じってシラホシハナムグリの1♂を蜂谷氏が採集された(標本筆者保管)。このあたりいわゆる播磨丘陵地帯で森林の様なものは無く平凡な農村地域であるがコナラ、クリ、ヤナギの樹は割合と多く見られる地域でもあった。このあたりに本種がいることがわかって大変喜んでいる。

今迄のシラホシハナムグリの県下での記録を地図に示すと図Aの様である。これでおわりの様に県の山地帯と言うのかやや中央部から西一帯にかけての記録が全く見られない。大変妙な具合の分布をしている。恐らくこの地域にもいると思われるのだが、この方面での調査をやって見たいものだと考えている。また記録があれば是非御教示頂きたいものである。シロテンハナムグリに混じって産するので案外無視されているのではないかと思ったりしている。

(最近石田正明・青木 隆両氏はシロテンハナムグリとシラホシハナムグリの区別を図を入れて解説しておられる。SAIKAKU 2:8-9,1986)。

(JAN.1987)

[追記] 2月13日(1988)会員 中川邦隆氏の来訪を受け話がたまたまこのシラホシハナムグリに及んだがその際同氏が明石公園内でキョウトアオハナムグリを調べに行かれた時数匹採集出来たとの貴重な情報を御知らせ頂いた(1♂4♀、1987年6月27日。樹液に来ていた)。新しい産地として記録しておくと同時にこの記録を提供下さった中川氏に御礼申しあげたい。



図A.

兵庫県におけるシラホシハナムグリの記録地

播磨平野のネブトクワガタ

(兵庫県甲虫相資料・207)

高橋 寿郎

ネブトクワガタ *Aegus laevicollis subnitidus* Waterhouse は兵庫県下に広く分布している種であるがどちらかと言えば川辺郡猪名川町、川西市を中心とした北摂に多く産している種のようにであった。最もこのあたりも開発の影響で次第に数が少なくなってきたし、体長の大きなものがなかなか採集出来ないと言うことである。ところが播磨平野での記録は案外と少ない。神戸市に属する西区太山寺とか神出町あたりに知られているが六甲山系にしても(六甲山系は摂津ではあるが)本種の記録が皆無に近い(西宮市仁川百合野町の1例がある。田中、1987)。西の方では三木市朝日丘が知られ離れて佐用郡稲垣寺迄の間での産が全く知られていなかった。

1987年9月17日小野市山田町の池畔にある樹液を流し出しているコナラの樹の樹皮を剥がしてその下から2♂そして樹の根元で流れた樹液によりやわらかくなった土の中から1♂の本種を同行の蜂谷幸雄氏が採集された(標本には全部筆者保管)。この樹液にはこの他にクワガタ4♂1♀もきていたし、オオキマダラケシキスイ、ナガチャケシキスイ、ルイスコオニケシキスイ、ヨツボシケシキスイ、ヨツボシオオキスイのおなじみの顔ぶれが多く来ていた。またオオスズメバチが多数きていて追いはらうのに一苦勞であった。樹皮下からはボクトウガのグロテスクな大きな幼虫が何匹も出て来て驚かされた。

この様に播磨平野の真中ではほぼ平地に近い様な状況の所にも本種がいるわけでもまだこの平野のあちこちに棲息しているのだろうと考えられる。ただ余程条件が良くなければいけないように思われる。灯火にも来るとのことであるからこのあたりもっと採集されても良いと考えられる。今回採集の3♂は体長(大腿を含む)28,22,20mmであり1♂の28mmはこの種としては大きい個体になると思われる(本種の体長に就いて五十嵐英一氏は北摂産を図示して色々と有益な意見を発表しておられる。TSI・I・SO, No.517, 1987)。

いずれにしても播磨平野ではなかなかお目にかかれないクワガタムシの1つのである。

末文になって申し訳無いが本種を採集され標本を御恵与下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。

(OCT.1987)

(付記) この報文脱稿後森田真澄氏から播磨平野での本種の貴重な記録の投稿を頂いた(本誌上に発

表)。やはり播磨平野にも割合いそうである。

芦屋市内におけるクロコノマチ ヨウの記録

西 隆 広

兵庫県下に定着しつつあると思われるクロコノマチ ヨウ *Melanitis phedima* CRAMERの芦屋市内における記録をとりまとめて報告する。

私がかって芦屋市内の蝶をとりまとめた時点¹⁾では本種は得ておらず、1例の報告²⁾以外に接していなかった。その後1985年に市内で複数の記録を得、また芦屋市教育研究所指導主事の古市景一氏からは氏が芦屋市立山手中学校において教鞭をとられていた間に発表された報告³⁾とその後得られた記録を御教示下さり、以下に示す計4年の記録を得た。

- ① 1 ex., 目撃, 24. X. 1980 芦屋市三条町 (山手中学校) 古市景一³⁾
- ② 1 ex., 採集, 1. IX. 1983 芦屋市三条町 (山手中学校) 古市景一
- ③ 1 ♀, 採集, 24. VII. 1985 芦屋市三条町 (高座川) 西 隆広
- ④ 1 ♀, 採集, 31. VII. 1985 芦屋市三条町 (高座川) 西 隆広
- ⑤ 幼虫多数確認, 14. IX ~ 6. X. 1985 芦屋市三条町 (高座川) 西 隆広
- ⑥ 1 ex., 目撃, 23. IX. 1985 芦屋市奥山 (高座滝付近) 西 隆広
- ⑦ 1 ♀, 採集, 26. IX. 1987 芦屋市奥池南町 (芦屋川上流) 西 隆広

1985年は複数の記録を得ているのでその内容を示す。

③、④の記録はいずれも夏型で、③は餌付けによって昼間も同地域に出没するようになった猪が、私の姿を見て藪の中に逃げ込んだ時に飛び出して来たものである。また④は夕立の後、薄暗い谷筋を低く飛んでいたものである。

⑤は高座川の岸のススキで発見したものでその内計4頭を採集、10月14日～10月17日の間に全て羽化した。

⑥は秋型で発生確認地からやや離れた高座滝付近のアラカシの樹液に来ていたものである。発見したのは午前7時過ぎ、曇天で非常に暗く、一度は確認できなかったが再度見て発見したものである。写真撮影を行ったところストロボ光に驚いたのか林内に姿を消した。新鮮な秋型であった。

1985年の発生をみると、⑤の間に見た幼虫の齢数はばらついており、⑥の目撃時においてもまだ若齢幼虫がみられたことから、複数の母蝶が長期間に亘って産卵したと考えられる。すなわち8月に採集した2頭はいずれも当地において羽化した一群に属し、2化目の夏型であり、同年春季からすでに当地に生息したと考えられる。

当地では10月6日まで若齢幼虫を確認したが、10月10日には全く姿を消した。原因は不明である。

ところで1980年から1985年の記録は全て高座川沿いであり、少なくともその間、経年的な発生が繰り返されていたと考えられるが、その後確認できていない。一方1987年の記録はやや離れている。分散しつつ定着を続けているのであろうか。

当地方では1979年頃からナガサキアゲハの定着をみたが、ナガサキアゲハは昼間、さかんに飛翔し訪花するのでその確認は容易であった。一方本種は日中はほとんど飛翔せず、薄暗い林内などに静止しているのでその発見は容易でなく、生息密度が低いまま推移する場合は各年での発生確認の困難が予想されるが今後の記録に興味がもたれる。

末筆ではあるが、本報告の作成に当り、貴重な記録を提供された古市景一氏に深甚の謝意を表します。

(参考文献)

- 1) 西 隆広(1984). 芦屋市の蝶、てんとうむし: 28-38.
- 2) 山本広一・吉阪道雄(1960). 兵庫県産蝶類目録(3)、兵庫生物、4(1):37-44,46.
- 3) 古市景一(1983). 芦屋市の蝶相について、研究集録、芦屋市立教育研究所: 23-30.

ヒオドシチョウの秋季記録

西 隆 広

ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas* DENIS & SCHIFFERMÜLLER は阪神間では6月上旬に羽化し、その後約1箇月は低山地帯でよく姿を見るが、7月上旬には姿を消しそのまま翌年の越冬個体まで姿を見せないのが通例である。

文献によれば、本種の秋季観察例もある¹⁾が多いものではない。

私は10月に次の記録を得たので報告する。

1 ♀, 27-X.1984 芦屋市奥山（蛇谷）

採集個体はやや飛び古してはいたが、破損は殆どなく、路上で吸水していたもので他に一頭、飛翔しているのを目撃した。

採集、目撃地点の標高は470mであった。

（参考文献）

1) 蝶類年鑑1987(1987)、蝶研出版： 339-340.

モンシロチョウの遅い記録

西 隆 広

モンシロチョウ *Pieris rapae* LINNAEUS の成虫は、阪神間では概ね11月下旬に姿を消すが、12月下旬に記録したので報告する。

1 ♂, 26. XII.1987 芦屋市精道町（芦屋川）

当日は季節はずれの高温であったが同個体以外はみかけなかった。

なお同個体は夏季型の特徴を示すもので、新鮮であったことから、休眠蛹の蛹化時期に非休眠蛹として蛹化したか、あるいは非休眠蛹の蛹化期に蛹化して羽化が遅れたのかのいずれかであろう。

西宮市内で迷蝶を採集す

新 家 勝

Hypolimnast bolina Linné リュウキュウムラサキ ♂ IX. 11. 1987 西宮市田近野町

採集場所は、筆者が勤務するS工業開発センターの中庭。ここは、旧武庫川堤防の松林に囲まれた日だまりで、ちょっとした昆虫のオアシスになっている。ナガサキ、クロなどのアゲハ類が舞い、ヒオドシ、ルリなどのタテハ類が日なたぼっこをする。春、ツマグロハナカミキリやヒメトラハナムグリが花壇の草花で吸蜜し、初夏にはラミーカミキリがムクゲで発生する。五月の中、下旬コヤマトンボが林間を飛翔し、夏日、藤棚下の暗い池にはヤブヤンマが産卵に来る。

当日は、曇で気温は低く、ときには小雨のばらつくこともあったが、朝からアゲハ類が多かった。昼の休憩時、クロマツの裾にあるジンチョウゲから、黒いタテハが1頭飛び出した。おかしい！！ルリよりは大きく、色も紫だ。飛び方も違う。これはただものではない！！じっと目で追うと、建物の近くで旋回して戻って来た。夢（筆者は、南方系のタテハやマダラチョウを採る夢をよく見る。「今度は夢ではない。本当だよ。」といい聞かせるのだが、ネットインしたとたんにも夢はさめてしまう）にまで見た南方系のタテハ、リュウキュウムラサキが目前にいる。

そっと手を差し伸べると、飛び立つが直ぐ同じジンチョウゲに止まる。何度か接近に失敗した後、立てた翅をそっとつかもうとしたが、さっとすり抜けて、今度は中中、戻って来ない。建物を飛び越えて旋回し、松林を潜り抜けてやっと戻って来たところを手の平に収めた。8月末の12号台風のときに、風に乗ってはるばる南の島からやって来たのだろうか。それとも、近くで飼育されていたものが、逃げ出したのだろうか。それにしても、蝶の集まるところが、よく分るものだと感心した。翅端はかなり擦り切れていたが、意外に鱗粉のはげ落ちは少なく、濃紫色の地に浮ぶ白斑が印象的であった。

宝塚市におけるシジミチョウ2種の採集記録

新 家 勝

幼虫の時期に、アブラムシと係わりをもつシジミチョウ2種の採集記録について報告させていただく。

1. *Taraka hamada* Druce ゴイシジミ

V. 30.1987 宝塚市安倉北四丁目 愛宕山神社

参道でトンボを探していたところ、白いシジミがひょうひょうと飛んだので、よく見ると羽化後、間もないふにゃふにゃの個体であった。宝塚市内では、X.18.1970清荒神という記録が、本誌第9巻第2号で加藤信一郎氏によって報告されているので、中山、安倉方面での採集を期待していた。そして、宝塚在住10年、1984年以来4年、愛宕山神社付近へ出掛けたところ、初めてお目にかかった。しかし、その後も、土、日には大抵ここを訪れているが、見つからない。誰かが飼っていたものが逃げ出したか、たまたまどこからか紛れ込んで来たかして産卵し、ネザサに発生するアブラムシを食って生長し、羽化したものであろう。採集例は少ないが、市内のどこかで細々と生き延びているのではないかと思われる。

2. *Niphanda fusca shijima* Fruhstorfer クロシジミ

Ⅷ. 12.1987 宝塚市長尾山 中山山頂

中山山上は、コナラ、コバノミツバツジなど背の低い雑木が多く、日当たりも抜群によいので、多くのチョウ達が集って来る。1984年に知人の福井恭次氏が、ここで本種を採集しておられるので、いつも注目していたところ、今回初めて採ることができた。宝塚市内の他の産地として、Crude No.29 Dec.13.1986 において緒方正雄氏が、逆瀬川を紹介しておられる。

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾（続報その 8）

新 家 勝

I はじめに

今回は、1987年の最終結果とこれまでの報告漏れ等について報告させていただく。採集場所は、今回もまた「宝塚市」を省略して記載する。

II 1987年の採集結果

1. Arctidae ヒトリガ科

- (1) *Eilema de pressa pavescens* Butler ムジホソバ

VI.16.1987 武庫川町

- (2) *Chionaema hamata* Walker アカスジシロコケガ

IX.29.1987 武庫川町

- (3) *Camptoloma ineriorata* Walker サラサヒトリ

IV.17.1987 武庫川町

約 2 km下流の美座 2 丁目で、IV.26.1979に 1 頭採集している。

2. Noctuidae ヤガ科

- (1) *Apatele consangius* Butler アサケンモン

IX.22.1987 武庫川町

- (2) *Actinotia intermedia* Bremer コモクメヨトウ

VII.3.1987 武庫川町

- (3) *Triphaenopsis lucilla* Butler シロホシキシタヨトウ

VIII.22.1987 武庫川町

- (4) *Euplexia literata* Moore ホソバミドリヨトウ

X.15.1987 南口 2 丁目

- (5) *Hadjina biguttula* Motschulsky フタテンヒメヨトウ

V.25.1987 南口 2 丁目

- (6) *Earias rosaifera* Butler ペニモンアオリンガ

VII.1.1987 武庫川町

- (7) *Abrostola triplasia* Linné イラクサマダラウワバ

X.13.1987 武庫川町

- (8) *Chibidokuga hypenodes* Inoue チビクロアツバ

IV.15.1987 武庫川町

3. *Thyatridae* トガリバ科

- (1) *Habrosyne pyritoides derasoides* Bulter アヤトガリバ

V.20.1987 南口2丁目

4. *Geometridae* シャクガ科

- (1) *Ecliproptera umbrosaria* Motschulsky オオハガタナミシャク

VII.1.1987 武庫川町

5. *Cossidae* ボクトウガ科

- (1) *Zeuzera leuconotum* Butler ゴマフボクトウガ

VIII.1.1987 武庫川町

6. *Pyalididae* メイガ科

- (1) *Nymphula turbata* Butler ヒメマダラミズメイガ

VIII.18.1987 武庫川町

X.7.1987 武庫川町

- (2) *Syllepte balteata* Fabricius クロスジキンノメイガ

VI.14.1987 南口2丁目

- (3) *Phlyctaenia verbascalis* Denis et Schiffermüller ヒメトガリノメイガ

IX.11.1987 武庫川町

- (4) *Herptogramma phaeopteralis* Walker クロオビクロノメイガ

IX.29.1987 武庫川町

III 報告漏れと訂正

本誌で報告したデータと標本とを照合したところ、次の5種の漏れと1種の誤記があったので、それぞれ追加、訂正する。

- (1) *Spilarctia flammeola flammeola* Moore アカヒトリ

VI.18.1981 南口2丁目

IX.18.1979 南口2丁目

- (2) *Neohipparchus vallata* Butler キマエアオシャク

VII.9.1984 武庫川町

- (3) *Parasa consocia* Walker アオイラガ

VIII.10.1984 南口2丁目

- (4) *Microleon longipalpis* Butler テングイラガ

VI.2.1985, VI.14.1987 南口2丁目

- (5) *Homona coffearia* Nietner チャハマキ

V.17.1982 武庫川町

- (6) 第10巻第2号で報告した *Syllepte signalis* Leech モンシクロノメイガを *Syllepte luctuosalis zelleri* Bremer モンキクロノメイガに訂正する。

IV. まとめ

1978年、拡張工事が終り、沢山の照明燈がつくようになった宝塚大橋で昆虫採集を始めて丁度10年が経った。10年もの間、同じ場所で、ほぼ同じ時間に採集したのだから、新たに得られるものが少なくなるのは当然で、1986年に新たに採集した蛾は、わずか9種しかなかった。でも、1987年は、ヒトリガ科3種、ヤガ科8種、トリバガ科1種、ジャクガ科1種、ボクトウガ科1種、メイガ科4種、計18種を得たほか、VIII. 17. 1987に久しぶりにメンガタスズメが飛来したのを目撃し、多少、気を良くすることができた。もう多くを望めないにしても、まだまだ、ここでの採集をやめる訳にはいかない。でも、この辺りで10年間の締めくくりをするため、本誌で報告したデータと標本を照合したところ、意外にも5種の報告漏れがあった。これらを含めると、331種の蛾を採集したことになるが、それらの総まとめは別の機会としたい。

V. 参考文献

講談社 日本蛾類大図鑑

北隆館 原色昆虫大図鑑

保育社 原色日本蛾類図鑑上、下

カバフキシタバの芦屋市における記録

西 隆 広

カバフキシタバ *Catocala mirifica* Butler は数少ないながら、西宮市や神戸市で記録されているが、本市での記録はまだ接していないのでここに報告する。

① 1 ex. 13. VII. 1985 芦屋市山芦屋町

上記の個体は、民家の門燈付近に静止していたものである。

カバイロキヨトウの一記録について

西 隆 広

カバイロキヨトウ *Aletia iodochra* Sugi は、岩手、秋田、新潟、兵庫(養父郡)の各県で記録されているが、少ないものようである。"

私は次の記録を得たので報告する。

1 ex., 12. VII. 多紀郡西紀町下板井

(参考文献)

1). 井上 寛ほか(1982)、日本産蛾類図鑑：講談社

宝塚大橋の甲虫（その１）

新 家 勝

I はじめに

宝塚大橋で蛾の採集を始めたのは、1987年9月末、橋の拡張工事が終り、新装された橋に沢山の照明燈が点燈するようになった頃からである。蛾が最も多いのは当然であるが、それ以外の昆虫も結構多く、昆虫であれば一通り採集することにした。本誌第9巻第1号以来、蛾を主体として一部の甲虫及びカメムシについて報告しており、今回から甲虫についても報告させていただく。

なお、採集場所は、橋の中央から右岸側が宝塚市武庫川町、左岸側が南口2丁目であり、「宝塚市」を省略して町名のみ記載するが、地理的には全く差はない。

II 採集記録

1. Cicindelidae ハンミョウ科

(1) *Cicindela japonica* Thunberg ハンミョウ

VIII.14.1982 武庫川町

2. Carabidae オサムシ科

(1) *Campalita chinense* Kirby エゾカタビロオオサムシ

X.23.1987 武庫川町

V.21.1979武庫川町、VI.3.1979 南口2丁目、VI.22.1979武庫川町、VII.27.1979

南口2丁目など目撃例多し。

3. Scaritidae ヒョウタンゴミムシ科

(1) *Scarites terricola* Bonelli ナガヒョウタンゴミムシ

VII.9.1984 武庫川町

4. Harpalidae ゴミムシ科

(1) *Craspedonotus tibialis* Schaum オサムシモドキ

VIII.29.1982 武庫川町

(2) *Calathus halensis* Schaller セアカヒラタゴミムシ

IX.12.1979 武庫川町

(3) *Platynus protensus* Bates コヒラタゴミムシ

- V.10.1979 武庫川町
- V.28.1979 武庫川町
- (4) *Colpodes buehneri* Hope オオアオモリヒラタゴミムシ
V.10.1979 武庫川町
- (5) *Amara chalcophaea* Bates コアオマルガタゴミムシ
V.31.1986 武庫川町
- (6) *Curtonotus giganteus* Motschulsky オオマルガタゴミムシ
X.25.1978 武庫川町
VI.10.1979 南口2丁目
- (7) *Ophonus capito* Moerwiltz オオゴモクムシ
VII.7.1979 武庫川町
IX.20.1979 南口2丁目
- (8) *Ophonus ussuriensis* Chaudoir ケゴモクムシ
IX.7.1987 武庫川町
- (9) *Ophonus eous* Tschitscherine オオズケゴモクムシ
VII.20.1979 武庫川町
- (10) *Anoplogenus cyanescens* Hope キベリゴモクムシ
V.24.1979 武庫川町
- (11) *Macrochlaenites costiger* Chaudoir スジアオゴミムシ
VIII.17.1981 武庫川町
- (12) *Chlaenius micans* Fabricius オオアトボシアオゴミムシ
VI.7.1981 武庫川町
- (13) *Chlaenius inops* Chaudoir ヒメキベリアオゴミムシ
IV.25.1986 武庫川町
- (14) *Chlaenius noguchii* Bates ノグチアオゴミムシ
VIII.20.1987 南口2丁目
- (15) *Lachnocrepis prolixa* Bates トックリゴミムシ
VII.22.1984 武庫川町
- (16) *Lebidia octoguttata* Morawitz ヤホンゴミムシ
V.9.1982 武庫川町
5. Dytiscidae ゲンゴロウ科

- (1) *Ilybius apicalis* Sharp キベリクロヒメゲンゴロウ

IX.20.1979 武庫川町

- (2) *Rhantus pulverosus* Stephens ヒメゲンゴロウ

XI.6.1978 南口2丁目

V.19.1979 武庫川町

VII.20.1979 武庫川町

- (3) *Eretes sticticus* Linne ハイイロゲンゴロウ

VII.20.1979 南口2丁目

この当時、電燈に多数飛来したが、その後は余り見かけない。

- (4) *Hydaticus bowringi* Clark シマゲンゴロウ

V.20.1983 武庫川町

- (5) *Hydaticus grammicus* Germar コシマゲンゴロウ

VII.20.1979 南口2丁目

- (6) *Hydaticus rhantoides* Sharp ウスイロシマゲンゴロウ

6. Hydrophilidae ガムシ科

- (6) *Sternolophus rufipes* Fabricius ヒメガムシ

V.29.1979 武庫川町

- (2) *Hydrochara affinis* Sharp コガムシ

IX.5.1979 武庫川町

ネブトクワガタの採集2例

森田真澄

兵庫県下でネブトクワガタ *Aegus laevicollis* を2例採集しているので報告する。

- (1) 4♂., 加古川市上荘町砦、19-VII-1986、森田真澄採集

ヤマナラシ樹幹部の小指の直径程ある穴に潜んでいた。(午前11時頃)

(2) 2♂., 神崎郡神崎町福山、16-VI-1987、安保孝子採集

ナラガシワの根際の落葉を掘ると発見できたという。(正午頃)この地のナラガシワ林にはコクワガタ、ミヤマクワガタが多産する。

ヨツボシナガツツハムシ 六甲山系逢山峡に産す

(兵庫県甲虫相資料. 208)

高橋 寿郎

ヨツボシナガツツハムシ *Clytra arida* Weise はやや中型のハムシであり(体長 8.0-11 ミリ)異々円筒状で強い光沢のある黒色を主体に上翅は赤褐色で肩部と中央部との辺に1個宛左右合計4個の黒紋を有するハムシで見方にもよるが大変印象的なハムシであり兵庫県下ではなかなか得られなくなんとか産地を探したいものだと思っていたが最近になって結構たくさんいる種ということがわかってきたのでそれ等を中心に若干の報告をしてみたいと思う。

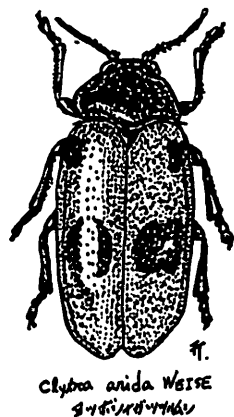
まずこのハムシを日本で始めて紹介されたのはJ.S.Baly氏でその論文 "Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with description of the species new to science" (Trans. Ent. Soc. London, 1873-Part. I) の中で(p.80), *Clythra laeviuscula* Ratzeburg なる学名で Hab., -Hiogo.oak (カシワ) により1頭を得たと云う記録である。即ち神戸産標本で始めて日本から本種が報告されたのである。氏は同時に次の様に追記しておられる

"A. Adams 氏が Chusan で採集したものと同じく A. Adams 氏採集

Vladimir Bay, Mantchuria での採集品も所有する。この種はアジアの北部に分布し、ヨーロッパにも広く分布している"とされている。

1879年には L.v. Heyden 氏が Prof. Dr. Rein の日本での 1874-1875 年の採集旅行で得た甲虫をまとめた論文で (Deut. Ent. Zeit. X X III, 1879, Heft. II, p. 361) 京都から3頭得たと記録された。

1887年の Schönfeldt, H. V. 氏による "Catalog der Coleopteren von Japan mit Anzabe



Beschreibungen und der sichr bekannten Fundorte" なる目録の中では(Jahrb.d.nass.Ver.f.Naturkunde 40:175), *Clytra laeviuscula* Ratzeb. と風名が違っていて産地はHiogo のみ掲げられている。

1907年には松村松年博士の日本千虫図解第4巻(pl.59,f.14,48)に始めて図説され戦前のはほとんど図鑑類は図説もされているし戦後の図鑑類にも一々書名は掲げないがほとんど図説されていると云うことは可成り普通に目につく種と云うか可成り印象的な種であると云うことは云えそうである。

ごく最近まで *Clytra laeviuscula* Ratzeburg と扱われていた関係で分布はヨーロッパ、シベリア、北支、満州、朝鮮、日本(本州、四国、九州)とされていた。

ところが1956年の中條道夫博士の“図説食葉はむし類”の中で(p.26)、日本産のものはヨーロッパ産のものに比較して上翅の黒色紋ことに中央部のそれが比較にならぬ位大きく且つそれに退化縮小する様な傾向も認められないとして日本産のものはヨーロッパ産の種の一つの地方亜種を構成するものではないだろうかと云うことをのべておられる。

C.laeviuscula はヨーロッパに分布している普通種なのかもしれない。筆者の手許にも次の様な図説がある。1912, E.Reitter, Fauna Germanica IV (Taf.142, f.13). 1934, G.Portevin, *Côleoptères de France* Tome III (pl. X V, f.180,198). 1947, *Côleoptères de France* Tome III (pl. V, f.85, p.31). 1971, *Coleopteres de France* Tome II (pl. V, f.85, p.161). ただ図説だけでは日本産との区別はそれ程ははっきりとわからない。やはりヨーロッパ産の標本を数多く見なければいけない様に思われる(確かに日本産のものの中央部の黒色紋は大きく図説されている。ヨーロッパのものより大きい印象は受ける)。

この点から木元新作博士は1983年アムール原産でシベリア、蒙古、北支那、朝鮮、日本(本州、四国、九州)に分布しヨーロッパにはいない *Clytra arida* Weise なる 学名を日本産にあてるべきだと発表しておられる(Ent.Rev.Japan, vol.38, No1, p18)。したがって本種は日本周辺にいる種と云うことになる(Kim C.W. の *Distribution Atlas of Insects of Korea Series 2, Coleoptera*, pl.xv, CH 07, p.141, 1978)によると主として南鮮であるが結構広く分布していて割合普通に見られる種のようなのである(1980年の *Economic Insect Fauna of China Fasc.18. Coleoptera: Chrysomelidae*(2)には p. 215, pl. X V, f.147 に *C.laeviuscula* がカラーで図説されていて中国内に広く分布している様である。分布は朝鮮、日本、シベリア、ヨーロッパをあげている。中国大陆にはこの *Clytra* 属のものは本種をふくんで3種いることになっている)。

日本での分布も割合広く(本州、四国、九州)それ程珍しい種ではないと考えられるが案外と記録は少ない様に思われた(一々地方の記録を拾って見なかったが身近にあるものを散見した範囲では)。だが兵庫県に関しては日本で始めて記録された地でありながその記録が意外と少ないのに驚かされたこの点についてはかつて筆者も報告したことがある(きべりはむし Vol.9, No.1, p.6-7, 1981)。

さて兵庫県で本種の記録を調べて見るとBaly氏のHiogo産は1個体である。場所はわからない勿論今より自然状態の良い時期の採集である。Schonfeldt氏の記録はBaly氏の記録を収録しただけである。

関 公一氏の神戸市御影町附近と云うのがある(1933)。この記録には六甲山、摩耶山をふくむ地域のものであるとその第1報の冒頭にのべておられる。従って恐らく六甲山か摩耶山での産地ではないかと思われるが何とも言えない(学名の命名者名はBalyではない)。

仲田元亮氏の記録しておられる猪名川町杉生新田は籠坊温泉の手前で地図で見ると標高400m位のところである。

山本義丸氏は氷上郡粟鹿峯頂上附近に産するも稀としておられる(1953,1958)。粟鹿峯は標高962mもある山である。

高橋 匡氏は養父郡氷の山を記録しておられる(1975)。この山は良く知られた山であるからとやかく云う地ではない(氷の山標高1510m)。ただ高橋氏が同時に記録されている豊岡市大磯と云うのは豊岡市内円山川沿いの地点で標高の低い所であり県では北部に当たるので気温等はかなり低いとは考えられるが採集地点としては注目すべき地点である。

美方郡扇の山の記録もある(辻, 1963., 辻, 岸田, 1972)。この山も標高1310mの山であるからその麓近くとしても標高はそこそこある地点であろう。

丹波、但馬地方を除いては六甲山系が産地として知られているだけになる。

筆者が六甲山で採集したのは1950年7月3日1♀を紅葉谷で採集したもので石田裕氏が採集されたのも同じ紅葉谷で御一緒にいて採集されたのを確認した(2exs., 15-VII-1956)。紅葉谷であるから標高400～600mのあたりであると思われる。

小林桂助氏の御所有の標本を見せていただいた時六甲山で採集された数匹の標本があった。ただ残念なことにデータを寫さなかったことと採集場所をお聞きしなかった。

岩田久二雄博士は唐櫃の標高400mの所で♂♀を採集したとかいておられるし(15-VII-1976)、岩田博士の友人の犬の虫ずきの水野 修君が唐櫃で採集してくれたものが博士としては三回目の出会いであって本種は山地生のものか仲々出会わない虫として紹介しておられる。博士のように野外観察を充分しておられる方でも余りお目にかからない数少ないハムシと云うことが出来そうである(昆虫を見つめて五十年、II., p.51-55, 1978)。

こうした状況から六甲山の北側部分には本種がいることはわかっているけれども仲々それを自分の手で採集となるといろいろの制約があって実現しなかった。1982年芦谷溪谷が話題になり何度か訪れた。1982年6月11日溪谷の入口、岩谷峠を越えた地点標高424mの所の道路ぞいのハギで同行の蜂谷幸雄氏が1♂採集された(標本筆者保管)更に六甲山の北側斜面逢山峽(岩田博士の唐櫃とは神戸電鉄をはさ

んで北と南になる)に蜂谷氏と出掛けてやはり標高400m位の所のハギから4♂1♀を採集することが出来た(1982年7月2日)。この逢山峽はその後調べに行く機会が無かったが1986年7月1日単独で出掛けて詳しく探して見たがとうとう見つめることが出来なかった。どうも不思議だと1987年6月27日に再度出掛けたがその日も全く見る事が出来なかった。ところが7月7日1982年に採集したと同じ場所で3♂3♀が採集出来た。やはりいるのである。それから7月11日再び訪れた。同日は天気もパットせず風がきつく1♂しか採集出来なかった。それから連日雨という状況で調べに行くことが出来なかった。久方振りに7月28日訪れて見た。ハギツツハムシ、ハギルリオトシブミは多いのに(この両種共7日の時点でも多かった)ヨツボシナガツツハムシは遂に1頭もお目にかかれなかった。

芦谷溪谷入口は6月11日に採集出来ていて一寸早い逢山峽では7月上旬にお目にかかれることが一番多い様である。ただし岩田博士の唐櫃で採集されたものは7月30日も産卵し♂も♀の産卵期間中ずっとその背面にとりついて授精姿勢をととのえていたとあるから恐らく野外でも8月初めでも見られるのではないかと考えられる(豊岡市大磯の採集は8月6日となっている)。

いずれにしてもこのハムシ兵庫県下では標高400m以上の所で見られたのがほとんどである(豊岡市のみ例外)。集合して生活をするのではなく単独的な生活をしているのか(産卵状況はどうも卵を一つずつ卵鞘に包んで産み落している様である)一度に多くを採集することがむづかしい種の様である。

現在の県下の分布は案外と県中央部とか西部地域で知られていない。多分もっと分布は広い様に思うのだが仲々お目にかかれぬ個体数の少ない種と言えよう。

食草に就いては中條・木元両博士はカンバの類、ブナの類、ヤナギの類とされており(1961)、木元博士はカンバ、ブナ、ヤナギの類(1984)を掲げておられる。

竹中英雄氏はハギ類、カンバ類、ヤナギ類を食草に掲げられている(1975,1985)。

岩田博士はハギから採集したとはっきり記録しておられる。筆者の採集も全部ハギからである。少なくとも兵庫県下ではハギを食草としていてと考えて良いのではないだろうか!前にも記したが逢山峽あたりハギは道路ぞいに續いてたくさんあるが標高の低い所ではほとんど見られず標高400m位の所に見られると云うことは何か標高との関連がある様な気がしないでもない(気温との関係もあるかも?)

産卵の状況、卵と卵鞘の図入り解説は岩田博士のものがある。だが幼虫、蛹に就いての生態は現在全く知られていない様である。(最近今森光彦氏はヨツボシナガツツハムシの産卵状況を美しいカラーで紹介され卵は糞で保護されるツツハムシ類の習性を示されている。アニメ No.184,p.31,1988)。この属のヨーロッパに産する3種と近縁のツツハムシ属*Cryptocephalus*の種に就いて主として卵に関してファーブルは詳しく解説をしている(岩波文庫、ファーブル昆虫記 第14分冊、p.51-74,1978年版)。しかしながら全体の生活史と云うのはわかっていない(竹中氏によると外国では幼虫がアリの

巢で寄生生活することが知られているとかいておられる。1975,1985)。

飼育もそれ程たやすくはないのかも知れない。今後の観察結果によることとすると同時に県下での分布特に空白地帯をもっと探して見たものだと思っている。

(DEC.1987)

県関係文献紹介

- Kishii, T., 1987. A Taxonomic study of the Japanese Elateridae (Coleoptera), with the keys to the subfamilies, tribes and genera.

Biol. Lab. Heian High Sch., Kyoto (priv. pub.): 1-262, 1 tab. 12 pls.

本会会員岸井 尚氏はこの論文により京都府立大学より農学博士の学位を授与されました。長年コメツキムシの研究一筋に励めた結果当然と云えば当然ですが日頃の地味な研鑽の賜物と心より喜び申しあげます。おめでとうございます。

尚この論文中兵庫、淡路島と特に産地が示されている種（岸井博士以外の原記載産地で兵庫と云うのは除く）が10種あり兵庫県産甲虫類に関する文献としても重要です。

- 兵庫県自然保護協会宝塚支部機関紙

1987第2号(9p.).

本会会員新家 勝氏編集によるものである。奥谷博士、東先生、本会会員小田中 健氏等がそれぞれ健筆をふるっておられる。一般を対象にされたものであるが仲々楽しい内容になっている。今後の発展を大いに期待したい。

(1987年11月刊)。

- 藤平 明、1987. 南淡の蛾 59p. (自刊)。

1979年に藤平 明氏は“南淡の蛾”と題し三原郡南淡町阿万上町での蛾相調査結果の42科 657種の蛾の目録を自刊された。その後も同地域の蛾の調査を続けておられ1987年11月再び30年間のまとめとして同じ題名の“南淡の蛾”を自刊された。今回はワープロできれいに印刷されていて44科810種がリストされている。この地域のファウナを知る上の大変貴重な文献となっている。ただ惜しむらくはコメントをもう少しつけて頂きたかった。この様な淡味な調査の結果を発表にな

られた同氏に改めて敬意を表したい。

- サイエンス兵庫・科学っ子Vol.2（監修・姫路市立科学館館長・家永善久・企画・関西電力㈱姫路支店・発行部数 2,000）（1987年10月刊）。

p.17-18 に“兵庫にすむ甲虫”を掲載してもらいました。同時に当兵庫昆虫同好会の紹介もして貰っています。

- 佐用ライオンズクラブ・千種川の生態（水生生物調査結）第15集（特集号）．31p.7 付図（1988年3月刊）。

昭和62年9月5日並びにその前後に千種川61か所の地点で延人員 450人により採集された89種 8,300匹による千種川の調査結果をまとめられたもので県立昆虫館の内海功一館長が指導されている。この調査は継続事業とのことで今後も引きつづいて調査されると思うのであるが年によって採集出来る虫の種類も数も変わってくるようでありまた川の汚れなども変化があらわれるようである。前にも紹介させて頂いたと思うが筆者の所には第10集(1983), 第14集(1987)も送って頂いている。

- 神戸大学教養部田中眞吾教授編集、建設省六甲砂防工事事務所編集協力の「六甲山地のすべて」（仮題）が神戸新聞出版センターより本年5月出版の予定です（発行部数5～6000部）。この中で「六甲山地の昆虫」と題して愚稿も発表して頂く予定です。機会があれば読んでやって下さい。

- 尚虫の会誌ではありませんが兵庫野鳥の会機関誌“鳥と自然”第47号(1987年12月)に小林桂助会長のお世話で“県下の水生昆虫——半翅目・甲虫目”(p.9-16)を発表して頂きました。別刷御希望の方があれば御連絡下さい。送らせて頂きます(送料のみ御負担下さい)。

- これまた昆虫に直接関係は無いようですが県保健環境部環境局環境管理課から年4回発行予定

「自然とともに」の創刊号(10P.)が送られて来ています。どの様に頒布されるのかよくわかりませんが今後どんな発展をとげるか一寸わかりません。一応こんなものがあると云うことを報告しておきます。

(T)

県内学会誌・同好会誌・連絡誌(1987・Ⅴ～1988・Ⅲ)

兵庫生物(兵庫県生物学会々誌)

Vol.9, No.4(1988・Ⅰ)

兵庫陸水生物(兵庫陸水生物研究会々誌)

No.29(1988・Ⅰ)

PARNASSIUS(淡路昆虫研究会々誌)

No.33(1988・Ⅲ)

INSECT (淡路昆虫研究会連絡誌)

No.34(1988・Ⅲ)

姫昆サロンニュース(姫路昆虫同好会)

No.80(1988・Ⅲ)

混虫ずかん(但馬むしの会連絡誌)

No.17(1987・ⅩⅡ), No.18(1988・Ⅰ)

Crnde(大阪昆虫同好会々誌)

No.31(1987・ⅩⅡ)

の せ (大阪昆虫同好会連絡誌)

Vol.16, No.8-12(1987・Ⅷ-1987・ⅩⅡ)

Vol.17, No.1-3(1988・Ⅰ-Ⅱ).

編集後記

- 暖かいお正月でした。1月も平均気温が例年より高く過ごし易かったのですが流石に2月に入ると結構寒くなりました。それでも春は着実にやって来ましたし本誌をお届けする頃は採集の好機になっていると思います。御活躍をお祈りします。

- 最近県下の同好会の活動はやや下火の様に思いますがどんなものでしょうか。

「昆虫の観察と云う言葉の裏には非採集というニオイが付きまとうのを拭いきれない。いま、あなたが見ている虫が何と云う虫であるかというごくベーシックな問題は甲虫類について言えば観察だけでは残念ながら現段階では解決されない」と述べられた露木繁雄氏の言葉(カミキリムシの魅力、1987)は全く当を得ています。「昆虫採集は趣味の王様」と久し振りに痛快な言葉に接しました。

若い人達の昆虫愛好者が大変少ないように思います。塾とファミコンに追いかけている様では淋しいです。どうも社会も教育も次第に殺伐としてきつつあるように思います。

- 本誌の原稿難あたりも深刻になりつつあります。次号は11月に御手許にとどけられるように頑張ります。

(T)

きべりはむし 第16巻第1号

昭和63年5月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区米室町1丁目44 高橋寿郎方

振替 神戸7-26646

印刷：(株) 文 尚 堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11